

## [巻頭言]

## 情報システムの発展は人材育成から

伊藤 重光

東日本大震災は日本にとって戦後最大の被害をおよぼしました。多くの犠牲者にお悔やみを申し上げますとともに、被災者の方々にはお見舞いを申し上げます。

システム・エンジニアとしての長年の経験と経営者のはしくれとしての経験から、情報システムは「はさみ」と同じく使いようだが、「はさみ」と違ってどんな道具にもなりうるので、作り方や使い方次第で素晴らしいシステムになることもあり、また厄介なものにもなってしまうのではないのでしょうか。このような観点から、今後人や社会に役立つ情報システムを数多く誕生させるためには素晴らしい情報システムを開発し、活用できる人材の育成が重要だと感じています。勿論、ここでいう情報システムとは、人間系を含んだ広い意味の情報システムであり、特殊な場合はコンピュータ・システムを活用していないケースもあるとの認識です。

以下、巻頭言としては少し長くなりますが、4つの視点から、考えを述べさせていただきます。

#### 1. 情報システムの活用が豊かな社会を実現する鍵

情報システムの活用により大変便利な社会になって来ました。人手で集計していたデータはコンピュータで集計されるようになり、単純作業はどんどんコンピュータの仕事に置き換わって来ています。さらにネットワーク技術や宅配便の進歩で、わざわざ移動をしなくても済むこ

とが増えました。省力化や分析という分野は大変な進歩を遂げたと言ってもよいのではないかと思います。しかし、さらに高いレベルの情報システムの実現にはまだ余地があるように感じています。特に組織や国を越えた情報システムの活用にはまだまだ課題が残されています。省エネを考慮した効率的な物流システム、業界を越えたりサイクル・システム、地域の全ての病院の情報が一元化された医療システム、効果的な全国自治体システム等、業種を越えた情報システムの活用や官公庁・地方自治体を越えた情報システムの活用を考えると、もっともっと活用の場が広がるはずですし、豊かな社会の実現に繋がるのではと期待をしています。

#### 2. 素晴らしい情報システムには優秀なシステム・エンジニアが必要

素晴らしい情報システムを作るには、様々な立場からの協力が必要です。企業を例に取ればトップ・マネジメント(CEO)、利用部門マネジメント、利用部門ユーザー、情報システム担当役員(CIO)、情報システム部門マネジメント、情報システム部門専門職ということになります。自社だけではなく外部企業からコンサルタントやプロジェクト・マネージャー、ITアーキテクト、ITスペシャリストといった支援をあおぐことも多いと思います。

このような関係者の中で中核となるのがシステム・エンジニアです。システム・エンジニアと

---

Shigemitsu Itoh

情報システム学理事、

日本 IBM サービス(株)社長

[巻頭言] 2011年 3月 7日受付

© 情報システム学会

いう表現は広い範囲の専門職を意味しており、もう少し分類するとIT コンサルタント、プロジェクト・マネージャー、IT アーキテクト、IT スペシャリストそれにプログラマーやオペレーターまで含んでシステム・エンジニアと呼ぶ場合もあります。そしてユーザー企業の立場で情報システム専門職として仕事をする場合とIT ベンダー企業の立場で仕事をする場合もありますので、情報システムにはシステム・エンジニアは欠かせないといっても過言ではないのです。となれば、素晴らしい情報システムを開発し、活用するには優秀なシステム・エンジニアが必要なのは明らかです。プロジェクトの中核となるシステム・エンジニアの力量で素晴らしい情報システムが誕生するかどうかが決まってしまうのです。

それでは何をもって優秀なシステム・エンジニアかどうかを考えてみましょう。IT コンサルタント、プロジェクト・マネージャー、IT アーキテクト、IT スペシャリストそれにプログラマーやオペレーターと役割が違えば、求められる能力は異なります。プロジェクト管理、論理的な思考・分析力、正確性・緻密さ、表現力・文書化力、対話力・まとめる力、リーダーシップ(統率力)、チームワーク(協調力)、IT 関連技術力、業務地域・業界知識はすべての役割に必要ですが、役割によって必要度合が違ってきます。そして責任感、熱意、誠意、気配りといった人間力も必要になります。

しかし、このような個々の能力から優秀なシステム・エンジニアかどうかを判断することは難しいのです。やはり総合的に判断する必要がありますが下記の視点で考えてみると分かり易いかもしれません。

① 当初計画した情報システムの狙いをきちんと実現できる

② 計画通りの日程・費用で完成させられる

③ チーム一丸となって目標に向かうことができる

④ 状況や環境の変化に柔軟に対応できる

⑤ 関連マネジメントにタイムリーに報告し、必要により援助を得ることができる

素晴らしい情報システムを多数生みだすには、このような優秀なシステム・エンジニアを育成することから始めないといけません。

3. システム・エンジニアのなり手がなくなる？

人や社会に役立つ情報システムを数多く実現させるに、今後多数の優秀なシステム・エンジニアが育ってほしいのですが、肝心のシステム・エンジニアのなり手が減っているのが現実です。システム・エンジニアという仕事に良くないイメージがあるのが原因のようです。不人気なIT 業界に対して3Kだけでなく7K(きつい、帰れない、給料が安い、規則が厳しい、休暇が取れない、化粧がのらない、結婚できない)という表現もされてしまっています。学生の就職希望ランキングではIT ベンダー企業は高い順位にはありませんし、システム・エンジニア希望の学生も減ってきているようです。人気の無い原因はプログラミングの単純作業やオペレーターの深夜作業のような一部の作業からイメージが低下しているのだと思いますが、これらはシステム・エンジニアの一部の役割の、さらに一部の作業なのです。これらの作業を担当したとしても成長過程の一時的な仕事であり、本人の成長とともに幅広いキャリアパスがある、素晴らしい仕事であることが理解されていないのだと思っています。システム・エンジニアの経験者が辛い話ばかりでなく、楽しくやりがいのある話を伝えることが重要なのかもしれません。

ん。私自身も若い時にはプログラミングも担当していましたし、その後も幅広いシステム・エンジニアの経験をして来ましたが、企業や社会に貢献できるやりがいのある素晴らしい仕事だと思っています。生まれ変わってもう一度職業を選択する場合にも迷わずシステム・エンジニアを選択していると思っています。とは言え IT 業界の労働環境にも問題はあります。他の業界と比べて良い面を維持し、悪い面を改善する業界全体での努力も必要です。

#### 4. 自主的に取組めばシステム・エンジニアは面白い

システム・エンジニアにもいろいろなタイプの人間がおり、様々な仕事の仕方をしています。例えば指示されたことをきちんとやるタイプのシステム・エンジニアがいます。与えられた仕事を期間内に品質良く実施することが達成感であり、そのために技術力を磨いたおきというタイプです。もし個人的には意見が違ったとしてもマネージャーには逆らわず、指示どおりに仕事をして評価してもらいたいという考えです。反対の例は自分の考えで行動するタイプのシステム・エンジニアです。大まかに決まっている仕事に対して自分自身で計画を立て、マネージャーに自分の考えを説明し、了解を得た上で仕事を進めるタイプです。自分で計画・実践するために技術力を磨き、提案して自主的に仕事を進めることを評価してもらいたいという考え方です。どちらのタイプにも優秀な社員はいますが、どちらかと言えば自主的に取組む社員の方が成長していると思いますし、きっと楽しんで仕事ができているのではないかと思います。また厳しい状況になった時でも自分が関与したことであれば納得して頑張れるのではないのでしょうか。

自主的に仕事をすることは簡単ではありません。与えられた仕事をたんと実施する方が責任も少なく精神的にも楽なので、ついそのモードになりやすいのですが、より高い達成感を感じるためには自主的な仕事への取組みは重要なテーマであり、多くの企業で人材育成の大きな課題となっているようです。自分の会社の例で恐縮ですが、社員としての行動様式について社員だけで議論をし、それを「気づきリスト」として自主的に社内にプロモーションをしている事例があります。社員だけで議論して作成したとは思えないくらい社員視点だけでなくお客様視点や会社視点も考慮された素晴らしい内容となっています。システム・エンジニアがどんな行動様式を目指しているかを理解することができると思います。本日は紙面の関係で詳細についてはふれませんが、別の機会で紹介させていただきたいと思っています。

今後、システム・エンジニアを希望する学生が増えるよう学会としても努力をしていく必要があると思っていますが、大学や高校の教育だけでは限界がありそうです。優秀な子供たちが情報システムに夢を持ち、情報システムに関わる仕事を素晴らしい仕事として興味を持てるような機会を提供する事から始めないといけないのかも知れません。